

(1) 労働者側

前叙ノ如ク被解雇解雇人ハ日本木材労働組合ノ指導ニヨリ夫
渉中ナルカ復職不能ノ場合ハ解雇手當ヲ増額要求スヘキ意
嚮ニテ刻續キ協議中ナルカ他方就労終工ハ何等動搖ナク平
常通作業シ居レリ

(2) 事業主側

會社側ニ於テハ解雇者中内地人ハ解雇手當ヲ受領シタルニ
拘ハラズ解雇人ノミ不服ヲ唱ヘ組合ノ勢カヲ藉リテ務要酌定
後ニ出ツル又手當増額ノ意志ヤク強硬ナリ

九發條事故

本月二十三日午後九時頃小宮社長宅ニ於テ面會強要セル主謀
者解雇人下正植ハ所轄西平野署ニ依リ檢束取調中
右及中(道)報假也

5 11 4
1863

勞務第三九四七號

昭和五年十一月一日

警視總監 丸山 鶴吉

内務大臣 安達 謙藏 殿
社會局長 官 殿
各廳 府 縣 長 官 殿

ハ大庭 彦

東京鉄筋製作會社勞働爭議ニ関スル件 第二報

要旨

(1) 會社側ニテ内地會社解雇人解雇ニ對シテ手當ヲ支給スルニテ是以上拒絶ノ方針ナリ
(2) 爭議(解雇人名)ハ日本木材ノ指導ニテ所在無ク十月二十九日要求書ヲ提出シタルカ履歷小林三男ハ
社長子女稟行ノ虞アリ檢束取調中

標記爭議其後ノ状況左記ノ通

記

一 事業主側